

自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育む  
外国語活動の指導について  
～児童の聞きたい！話したい！という思いを大切に～

福岡 理恵

I はじめに

1 研究テーマ

自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育む外国語活動の指導について  
～児童の聞きたい！話したい！という思いを大切に～

2 テーマ設定理由

1. 学習指導要領から

学習指導要領の外国語の目標は以下のように示されている。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

目標は、①言語や文化に関する事項 ②コミュニケーションに関する事項 ③外国語の音声や基本的な表現に関する事項の3つの柱から成り立っている。

2. 神奈川県教育課程研究会の研究主題と趣旨から

【研究主題】

コミュニケーション能力の素地を育成する学習指導と評価の工夫・改善

【趣旨】

コミュニケーション能力の素地を育成するにあたっては、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、言語や文化について体験的に理解を深めることが必要である。そのため、児童の実態に応じた学習指導、評価及び教材・教具等の工夫・改善について研究する。

①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する学習指導、評価及び教材教具の工夫

(1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや大切さを感じさせる指導・評価の工夫

(2) 外国語を積極的に伝え合う態度を育てる教材・教具の開発や工夫

②言語や文化について、体験的に理解を深める学習指導、評価及び教材・教具の工夫

(1) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる指導・評価の工夫

(2) 日本や外国の文化を知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる教材・教具の開発や工夫

③中学校との連携を意識した指導計画、評価計画の工夫・改善

上記の①の(1)を中心に研究を進めた。

### 3. 座間市の取組と、勤務校の実態から

「平成28年度座間市教育事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」を見ると、国際化教育の一つとして、外国人英語指導講師派遣を全小学校5、6年生の全クラスに平均20回派遣していることが分かる。またその目的が、「外国人英語指導講師とのコミュニケーションにより英語に親しむ。」とされており、課題等の欄には、「今後も外国人英語講師を通じて外国人との交流に慣れ、聞くこと、話すことの活動を中心に、音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うために更に継続していく必要があります。」と書かれている。市の取組からも、英語でのコミュニケーションへの態度や英語の音声を大切にしていることが分かる。

勤務校では、外国語活動を校内研究等で取り扱ったことはなく、学校独自の指導法や教材等はない。外国人英語指導講師が、各クラス20時間派遣されることもあり、外国語活動の指導の中心が学級担任よりも外国人英語指導講師であるという現状もある。今後教科化し時間数が増えたとき、おそらく本校でも学級担任だけで外国語活動の授業を行う時間が増えてくると思う。そんな時に本研究が少しでも活かされるように、学級担任だからこそできる指導の工夫を研究テーマに取り入れておきたいと考えた。

## II 研究内容

### 1 研究仮説

単なる音声訓練ではなく、児童の「聞きたい」「話したい」という思いを引き出すような教材や活動を取り入れることで、自らコミュニケーションを図ろうとする意欲を持ち、その楽しさを味わうことができるだろう。

### 2 授業作りの3つの視点

- 1 児童の思考や心の動きがあるような授業作り
- 2 「子どもの学び方」に沿った授業作り  
インプット→アウトプット、音声→（文字）
- 3 正しい英語表現、本物の教材を取り入れた授業作り

### 3 授業作りの3つの視点に沿った取組

#### 1 児童の思考や心の動きがあるような授業作り

##### ◇担任だからこそできる工夫を取り入れて、児童の興味関心を引き出す

児童がその英語を「聞きたい（聞いてみたい）」「話したい（言ってみよう）」と思うときには、必ず心の動きがある。児童一人ひとりの特技や趣味を、英語表現の中に取り入れたり、学校や地域のことを活動の中に少しでも絡ませたりすることで、児童が楽しんで意欲的に授業に参加できるようにした。

例)・日付を尋ねたり答えたりする単元で、学校行事（運動会・修学旅行・卒業式）などを用いた。

- ・「できること」を表現する単元では、フラッシュカードの中に児童一人ひとりの特技を追加した。（相撲・スキー・絵を描く・写真を撮る等）
- ・道案内の単元では、「夢の街」として、地域にある建物や、児童が「あったらいいな」と思う建物を合体させて街をつくり、それを道案内の活動に取り入れた。
- ・行きたい国を表現する単元では、「夢の修学旅行プラン」として、「みんなで行くとしたらどこへ行ってみよう」と問いかけることで、楽しみながら行きたい国を表現できる活動を取り入れた。
- ・一日の生活と時刻を表現する単元では、新聞のテレビ欄を用いて、発話への意欲を引き出すようにした。
- ・将来の夢を表現する単元では、日常の会話や日記から子どもたちの夢を把握し、フラッシュカードを追加した。

##### ◇ゲームを見直すこと・ゲームからの脱却

児童がゲームの中で英語を聞いたり、英語で発話をしたりする場面は、授業が活発に進み、児童が楽しみながら積極的に外国語活動を行っているように思われがち。授業者も盛り上がる様子に満足しがち。もちろんそれが、児童の力を伸ばすために必要な外国語活動の場合もあるだろう。しかし、私が過去に授業で使ったゲームや研修や本から学んだゲームを見直すと、単に音声訓練や、単語を暗記させるためのものであったり、児童が盛り上がるための意味の薄い遊びの時間であったりするゲームがいくつもあった。そこで、児童が「知りたいな」「伝えたいな」という思いを持ってできるゲームや、自分のことや友達のことについて思考判断しなければならないようなゲームを取り入れた。それ以外のゲームにも頼りたい気持ちもあったが、単に声を出すだけのゲームからは脱却することも大切だと考えた。

(積極的に取り入れたゲーム)

・ 出席番号ゲーム (様々なパターンで)

児童を起立させ、教師や代表の児童が出席番号をランダムに言う。番号を呼ばれた児童は着席するというシンプルなゲーム。出席番号以外にも、単元に合わせて、誕生日や着ている服の色や起床時間などを尋ねるパターンも試した。児童自身に関わることを尋ねるので、しっかり聞かなければならないゲームである。

・ 歌の中で単語を見つける

子ども向けの歌を聞かせ、「〇〇(英単語)が何回聞こえましたか？」や「出てきた動物は何ですか？」「何色が聞こえましたか？」などの質問をし、単語を探しながらゲーム感覚で繰り返し歌を聞かせた。

・ 絵本の内容の記憶ゲーム

絵本を読み聞かせした後に、登場人物を出てきた順に並べたり、出てきた食べ物や色、動物や数字などをクイズにしたりした。読み聞かせにちょっとしたアクティビティーを取り入れることで、聞いてみたいなという児童の気持ちを引き出すようにした。

## 2 「子どもの学び方」に沿った授業作り

インプット→アウトプット、音声→(文字)

### ◇「聞くこと」「聞かせること」を大切にする

学習者は、11歳と12歳の児童であり、中学生の学び方とは異なることを念頭に置かなければならない。児童に興味を持たせながら、英語表現をたくさん聞かせ、繰り返し聞いた表現がインプットされ、自然な流れでアウトプット(発話)されることを理想として授業作りに取り組んだ。外国語活動でありがちな、児童のアウトプットを促すための“Repeat after me.”やクラス全員一斉にアウトプットさせるための“せーの”“One two”などの教師の発言もやめた。「聞いて分かればまずはOK!」という心構えで授業をし、アウトプットが予想したより少ない場合は、もう一度聞かせることからリスタートするように心がけた。

### ◇音声を重視する

児童の「思考や心の動き」の次に「音声」を重視して授業作りに取り組んだ。児童には体験を通じて英語のイントネーションやリズムやストレスを「音声」から獲得したり、日本語と英語の違いに気付いたりして欲しいという願いがあった。学校によっては外国語ルームなどがあり、児童に身に付けさせたいたく

さんのフレーズが文字で書かれ掲示されていたり、授業中に黒板に書いて児童と一緒に読み上げるような指導法もあったりするが、本研究では、あえて文字を省き音声を重視した。「あれ？何だったけ？」となったときは、教師や友達や教材の音声に耳を傾けるような指導に取り組んだ。

### **3 正しい英語表現、本物の教材を取り入れた授業作り**

#### ◇正しい英語表現（文法・発音・フルセンテンス等）

英語を話す人の中には、英語が母語ではない人もたくさんいる。児童がネイティブスピーカーのようになることを目指すわけではないが、社会に出て通じなければ児童もがっかりしてしまうだろう。児童に聞かせる教師の英語は正しい英語表現であるように努力した。過去形を教えていないから使わない、三人称単数の場合の動詞の変化を教えてないから主語は全部“ I ”にしなければならぬなどという考えではなく、必要なときには自然な英語を使うようにした。

また、日常的に使わないような不自然な表現を見直した。例えば、外国人講師の“How are you?”という質問に対して“ I am fine.”の答えに混じって“ I am hungry.”という児童がいれば、その不自然さに気付かせたり、講師や教員に向かって“Teacher!Teacher!”と呼ぶ児童がいれば、正しい呼び方を教えたりした。小さなことかもしれないが、違和感があるものは訂正するようにした。

そして、できるだけフルセンテンスでの英語を用いた。“What?”“What color?”ではなく、“What color is that?”のように正しい英語表現を使うよう努力した。児童が言えなくても、それを聞かせることは重要だと考えるからだ。

#### ◇教材選び

児童の実態に合わせた教材や各単元の内容に合わせた教材を選ぶことに時間を費やした。絵本、DVD、英語の歌のCDなどを単に選ぶだけでなく、選んだ教材をどのように児童に見せるか、聞かせるかを考えることにも重点を置いた。また、教師がたくさん英語を聞かせるにも限界がある。そういう時は、動画にも頼った。聞かせたい英語表現が詰め込まれている点はもちろんのこと、映像で外国の雰囲気を感じながら英語を聞くということはとても学習効果があると考えた。また、児童だけでなく指導する教師自身にも合った教材であることも重要であると気付くことができた。研修等で教えてもらった教材が自分自身の授業で使えるかどうかは、実際に教材を手にとってみて吟味する必要がある。私自身が難しいと思ったり面白いと感じなかったものや、私自身が発音できない単語がいくつも含まれているもの、言い慣れないフレーズがいくつも入ったものなどには、無理に手を出さなかった。

#### 4 その他の取組：評価と振り返りメモ

現行の指導要領の内容を中心にした研究ではあるが、少しだけ教科化を意識した取組として外国語の評価に目を向けた。外国語の評価にはC E F R (Common European Framework of Reference for Languages) が用いられており、中学校や高等学校ではCAN-DOリストが作成されている。また、文部科学省のホームページには、小学校用補助教材である Hi, friends! Plus についてのCAN-DOリストが掲載されている。今後は、小学校も含めたCAN-DOリストを用いることにより、系統性を持たせた指導を行うことが大切になる。そこで、本研究でも児童が自己評価をする「振り返りメモ」を用いて、授業中の活動を自分自身で振り返る活動を取り入れた。「楽しかったですか。」というような授業への感想を問うような振り返りではなく、「聞くことができましたか。」「話すことができましたか。」というようなコミュニケーションの技能を問う項目を設けてみた。ただし、外国語活動の段階であるため、児童ができないことに不安を感じるような具体的すぎる言葉は避け、ポジティブに自己評価と振り返りができるような言葉を用いた。また、児童の自己評価に対するフィードバックを慎重に行った。

#### 5 年間計画

外国語活動年間指導計画 第6学年（35時間）

単元	単元名	学習内容	使用表現等
Lesson1 (4時間)	Do you have “a”?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりする。</li> <li>・31～100の数の言い方やアルファベットの小文字に慣れ親しむ。</li> <li>・世界には様々な文字があることを知る。</li> </ul>	Do you have~? Yes, I do. No, I don't. アルファベット a~z 等
Lesson2 (4時間)	When is your birthday?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日を尋ねたり答えたりする。</li> <li>・月の言い方や誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</li> <li>・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。</li> </ul>	When is your birthday? My birthday is~. January~December first~thirty-first 等

Lesson3 (4時間)	I can swim.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できること」を尋ねたり自分の「できること」や「できないこと」を答えたりする。</li> <li>・「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。</li> <li>・言語や人、それぞれに違いがあることを知る。</li> </ul>	<p>I can swim. I can't swim. スポーツ 等</p>
Lesson4 (4時間)	Turn right.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道を尋ねたり道案内したりする。</li> <li>・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</li> <li>・英語と日本語では建物の表し方が違うことに気付く。</li> </ul>	<p>Where is the station? Go straight. Turn right/left. 建物の名前 等</p>
Lesson5 (5時間)	Let's go to Italy.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行きたい国について発表したり友達の発表を聞いたりする。</li> <li>・行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</li> <li>・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。</li> </ul>	<p>I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go. 国名 等</p>
Lesson6 (5時間)	What time do you get up?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一日を紹介したり友達の一日を聞き取ったりする。</li> <li>・生活を表す表現や、一日の生活についての時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。</li> <li>・世界の様子に興味をもち、世界には時差があることに気付く。</li> </ul>	<p>What time do you get up? I get up at seven. 生活を表す表現 等</p>
Lesson7 (5時間)	We are good friends.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で物語の内容を伝える。</li> <li>・まとまった英語の話を聞いて、内容が分かり、場面にあった台詞を言う。</li> <li>・世界の物語に興味をもつ。</li> </ul>	<p>We are good friends. We are strong and brave. 桃太郎の物語に関する語 等</p>

Lesson8 (4時間)	What do you want to be?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来の夢について交流する。</li> <li>・どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。</li> <li>・世界には様々な夢をもった同世代の子どもがいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して言語の面白さに気付く。</li> </ul>	What do you want to be? I want to be a singer. 職業に関する語 等
------------------	-------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

### Ⅲ 実践授業

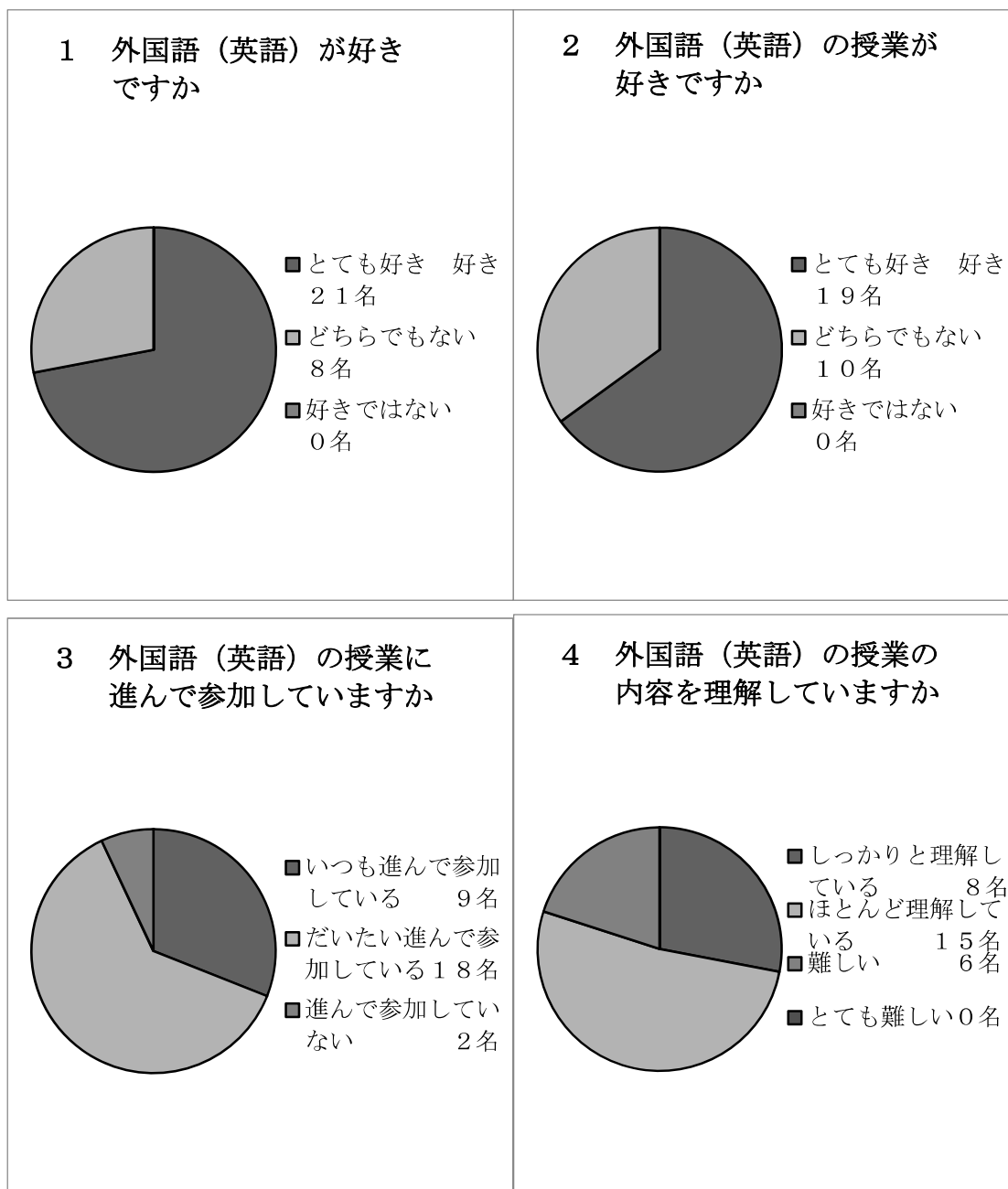
- 1 学年 場所            第6学年 教室
- 2 単 元 名            Let's go to Italy. (Hi, friends! 2 Lesson5)
- 3 児童の実態

本学級には、元気で明るい児童と穏やかで静かな環境を好む児童がいるが、男子17名女子12名と男女比の影響もあり、一見すれば賑やかである。児童一人ひとりの個性が豊かで、それぞれの得意なことや趣味をお互いに認め合う雰囲気がある。ほとんどの児童が、興味や関心をもったことには意欲的に取り組むことができ、その集中力も高い。しかし、学習内容によっては興味が持てずに消極的になってしまったり、諦めてしまったりする児童もいる。

外国語活動においては、アンケートを実施すると多くの児童が英語自体や外国語活動の授業が「好き」「とても好き」を選んでおり、関心をもって学習していることが分かる。しかし、外国人英語指導講師からの質問に下を向いてしまったり、「誰か前に出てやってくれる人？」と求められても手が挙がらなかったりする場面が多く見られる。学習を楽しむことはできるが、積極的に活動して楽しむというよりは、英語を聞くことや、英語と日本語の違いを知ることへの興味関心が高い。また、学習内容に関して、学校外で英会話や英検、中学英語などの学習を進めている児童は授業内容に物足りなさを感じているようである。しかし一方で、英語での説明や英語での指示、少し長いフレーズを発することへの難しさを感じている児童もいる。



(アンケート結果：6月実施)



#### 4 単元について

本単元では、I want to go to Italy.や Where do you want to go?などの英語表現を用いて、進んでコミュニケーションを図ろうとすることをねらいとしている。単元の前半で、世界の国々の名前や世界遺産などを知ること、児童の興味関心を高め、「聞いてみたい」「話してみたい」という気持ちを引き出す。後半には、繰り返し聞いた英語のフレーズが自然に発せられるような活動を展開していく。

5時間扱いの本単元では、国名のチャンツのDVDと世界の国々を絵を使って紹介している地図絵本をポイントの教材として毎時間活用する。毎時間活用することで、国名やフレーズのインプットにつなげたり、各国の特徴への気付きを持

たせたりすることができると思った。また、それが、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとすることへの原動力にもなると考えた。

Activity では、「夢の修学旅行プラン」として、グループでの活動を取り入れる。児童一人ひとりが Activity までに学習してきたことを進んで活かせるように、グループで一つのプランを作るという活動にした。グループ活動の中で互いに学び合うこともコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながるだろう。単に「旅のプラン」とせず「夢の修学旅行プラン」としたのは、児童が楽しんだ修学旅行を想起させ、楽しんで活動できるようにという願いはもちろん、みんなで行くという設定で、自分の興味のある場所をみんなに見せたい、だから伝えなければ、という必然性を持たせるために適切だと考えたからだ。また、「修学旅行」であるため、グループ内で行きたい場所が重複すれば、2番目に行きたい場所とその理由まで考えなければならぬし、それを伝える表現を用意しなければならない。内容理解が十分な児童にとっては、さらなる課題が追加され積極的な活動が途切れないであろう。そして、活動をサポートするために、世界地図と絵本を教材に選んだ。自分の思いを伝える時に地図の場所を指さしながら発言することができるだろうし、聞いている児童も地図があることで、耳から得た情報を目でも確認できるメリットがあると考えた。

## 5 単元の目標

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。

[外国語への慣れ親しみ]

行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。

[言語や文化に関する気付き]

世界には様々な人たちが様々な生活をしていることや、英語と日本語とでは国名や建物の言い方に違いがあることに気付く。

## 6 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。	行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しんでいる。	世界には様々な人たちが様々な生活をしていることや、英語と日本語とでは、国名や建物の言い方に違いがあることに気付いている。

7 単元計画及び評価計画(全5時間)

	目標 (◇) と主な活動 (・)	評価			
		コ	慣	気	評価規準
1	◇英語と日本語とでは、国名や建物の言い方が違うことに気付く。 ・どこの国の何という世界遺産かを知る。 ・Let's Play1 (Hi, friends!) 音声を聞いて国名を書く。 ・Let's Play2 (Hi, friends!) 国旗クイズをする。			○	英語と日本語とでは、国名や建物の言い方に違いがあることに気付いている。 【行動観察・振り返りメモ】
2	◇世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。 ・中国、フランス、オーストラリアのビデオを見て気付いたことを話し合う。 ・Let's Listen2 (Hi, friends!) 音声を聞き、フランスについてわかったことを書いたり、発表したりする。			○	世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。 【行動観察・振り返りメモ】
3	◇行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。 ・絵本やカードを使って、行きたい国を表現する。 ・Let's Play3 (Hi, friends!) 友だちに行きたい国をインタビューする。			○	行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しんでいる。 【行動観察・振り返りメモ】
4	◇行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。 ・チャンツを楽しむ。 ・Activity (Hi, friends!) 自分のおすすめの国を紹介したり、友だちのおすすめの国を聞いたりする。			○	行きたい国について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しんでいる。 【行動観察・振り返りメモ】
5 本時	◇自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。 ・「夢の修学旅行プラン」既習事項を活かして、グループで旅行プランを作り発表する。	○			自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。 【行動観察・振り返りメモ】

8 本時の目標

自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。

9 実現状況を判断する際の具体的な児童の姿と目標実現を目指すための手立て

観点	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する(C)と判断した児童・生徒への具体的な手立て
コミュニケーションへの 関心・意欲・ 態度	自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。	自分の思いが伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を聞いたりしようとしている。	個別に声をかけ、本や地図を見るように促したり、必要な表現を繰り返し聞かせたりする。

10 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
<p>[Greeting]</p> <p>1 Hello.How are you?などの挨拶を交わす。</p> <p>[Warm Up]</p> <p>2 絵本の読み聞かせや歌を楽しむ。</p> <p>[Review]</p> <p>3 前時までの表現を振り返る。 I want to go to Italy./China/India/など I like pizza./soccer/pyramids/など</p> <p>[Activity]</p> <p>4 『夢の修学旅行プラン』 ・世界地図を見ながら、それぞれの行きたい国を聞き合い旅行プランを作成する。 ・各グループが発表し、「お気に入りプラン」を見つける。</p> <p>[Consolidation]</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<p>絵本：“Excuse Me!”</p> <p>しっかり聞いてみようとする姿勢を促す。 絵本：“Ketchup on your cornflakes?” 絵本：“The Lady with the Alligator Purse” 言ってみたいなという気持ちを持たせる。 積極的な発話を促す。</p> <p>チャンツ：国名 絵本：“Maps” 世界地図</p> <p>楽しんで活動できるような雰囲気作りに配慮する。 表現に困っている児童のサポートをする。 活動への意欲が持てない児童のサポートをする。 絵本：“せかいちず絵本”</p> <p>本時の自己評価をさせる。 自己評価が低い児童への声かけを配慮する。</p>	<p>☐自分の思いがはっきり伝わるように、行きたい国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。</p> <p>【行動観察・振り返りメモ】</p>

11 本単元の成果（○）と課題（●）

○単元計画において、はじめの2時間は児童に気付きを持たせる内容、次の2時間は英語表現への慣れ親しみの時間とし、学習を積み重ねたことで、第5時では全員が自分で行ってみたい国を選び発表することができた。全員がその国へ行ってみたい理由も表現することができ、思いを持って活動できたことが分かる。

- 第5時の活動の場面では、全員がお気に入りの「修学旅行プラン」を見つけることができた。つまり、友達の発表をしっかりと聞き、理解しようとしたことが分かる。
- 「夢の修学旅行プラン」として活動をさせたことで、行きたい国を考えなければならぬという必然性を持たせることができた。現実にはあり得ないことだとしても、児童は、少しわくわくした気持ちで楽しみながら活動する様子が見られた。
- 国名のチャンツのDVDを繰り返し使ったことで、日本語と英語の言い方に違いがあることに気付かせることができたり、自然な発話へつなげることができたりした。
- 「せかいちず絵本」や「Maps」を用いたことで、児童の世界への興味を引き出すことができた。また2冊の絵本は、意欲的に参加できない児童をサポートすることにも役立った。
- 単元のはじめにゴール（「夢の修学旅行プラン」を考えて発表すること）を示しておくことで、フレーズを覚える必然性を持たせることができるのではないかな。
- 「話したい」という土壌作り、雰囲気作りをもっと強化しなければならない。
- グループ活動の中で児童同士の日本語での会話が目立った。英語でのやりとりができるように繰り返し練習させ、口慣らしをすれば、それが「できる」という自信につながり、そして「言ってみよう」につながるのではないかな。使わせたい表現を書いておくと、それが発話のサポートになるのではないかな。また、英語を使うように教師がもっと促さなければならなかったのではないかな。

#### IV 研究の成果（○）と課題（●）

##### 1 授業作りの3つの視点から

###### 1 児童の思考や心の動きがあるような授業作り

- 担任だからこそできる工夫をどの授業にも少しずつ加えていくことで、児童が嬉しそうに英語を使って発話をする場面が増えた。担任が知っていることは、大抵クラスのみみんなも知っていることなので、英語であっても類推しながら教師や友達の発言をしっかりと聞こうとしていた。
- ゲームを見直したことで、思考しながら楽しめる活動が残った。元気に盛り上がるゲームがなくなったことで、児童は外国語活動を特別なものとして捉えるのではなく教科の授業と同じような落ち着いた授業態度で授業に参加するようになった。本クラスの児童に合っていた。

○児童が思考しながら聞いた英語や、心の動きを伴って発話した英語は記憶に残りやすいということが分かった。授業外で、児童の英語の呟きを耳にすることがあり、驚かされた。

●児童の興味・関心を引き出す工夫は大切だが、興味・関心のあるものだからこそ日本語で語りたくなってしまう場面もある。児童同士の会話にも英語が飛び交うようなさらなる工夫が必要だと考える。

## 2 「子どもの学び方」に沿った授業作り

○同じ英語表現を何度も繰り返し聞かせているうちに、教師の声やCDに合わせて発話する児童がいたり、自分が言えるところだけ言ってみようとする児童の姿が見られた。繰り返し聞くことで、児童は安心するのだと感じた。また、英語らしいリズムを崩さずに繰り返すことで、自然と英語のリズムにのって、インプットがアウトプットに変換されていくのだと思った。

○音声を重視したことにより、英語らしい発音ができていた。発音の指導は行わなかったが、いわゆる「カタカナ英語」のような発話をする児童はほとんどいなかった。しっかり聞いて、聞いたままを上手に真似る能力があるのだと改めて認識した。

●外国語に限らず「聞く」ということが苦手な児童にとっては、繰り返しの時間で集中力が途切れてしまうことがあった。全員が最後まで興味をもち続けて聞くことができるようにさらなる工夫が必要だと思った。

## 3 正しい英語表現、本物の教材を取り入れた授業作り

○正しい英語表現を意識することで、自分自身の英語を見直すきっかけとなった。これが直接、児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲につながるわけではないが、教師が言葉を大切にしている態度を示すことは重要だと改めて感じた。

○悩みに悩んで選んだ教材は、どれも児童の興味関心を高めるものだった。絵が中心の児童用の教材を選んだので、日本語で多くを説明することもなかった。6年生であっても、絵本の読み聞かせや歌を聞いたり歌ったりすることが楽しいと感じた児童もいた。また、授業の後や放課後に、絵本に出てきたフレーズや英語の歌を口ずさむ児童の姿はとても微笑ましかった。

●絵本は小さいので、児童に見せる方法を工夫しなければならない。

## 2 その他の取組：評価と振り返りメモ

○振り返りメモは、具体的な内容で児童にも分かりやすく書きやすいものにしたことで、児童は、素直に授業での自分を振り返り「できた」と思うことや「難しかった」と思うことを確認することができた。教師は、行動観察では見落とししてしまった部分を個別に確認することができた。また、自己評価が低い児童には適切な声掛けをすることもできた。

●教科化した際には、自己評価だけではなく教師も児童を観点別で評価する。評価されることで、コミュニケーションを図ろうとする意欲や積極的な態度が失われないようにしなければならない。適切な評価の方法を慎重に考えていかなければならないと思う。



## VII 終わりに

「単なる音声訓練ではなく、児童の『聞きたい』『話したい』という思いを引き出すような教材や活動を取り入れることで、自らコミュニケーションを図ろうとする意欲を持ち、その楽しさを味わうことができるだろう。」と研究仮説を立て研究をしたが、仮説に近づくような結果が得られたのではないかと思います。1対1のコミュニケーションだけでなく、グループ内でのコミュニケーション、クラス全体でのコミュニケーション、どれもまずは「聞きたい」「話したい」という思いから始まると思う。これは外国語に限ったことではなく、社会生活の中で身に付けていかなければならない力かもしれない。しかし、児童にとって英語を用いたコミュニケーションは非日常のシチュエーション。だからこそ、教師は真剣に慎重に考え、児童が英語を用いてコミュニケーションを図りたいと思えるような準備をしてあげなければならない。これが外国語活動の指導の根本だと、研究を通して分かった。

研究の成果と課題をいくつか書き出してみたが、本当の意味での成果を見られるのは、児童が社会に出たときだと思う。小さな学びが、児童の将来につながっていくことを願う。

この研究で得たことをこれからの指導に活かしていきたいと思う。



アルファベットジングル  
(動物篇)を  
言うことができる

先生が絵本  
This is ME! を  
読むのを聞いて  
その内容がわかる

アルファベットの小文字  
26種類を見て  
それを読むことができる

先生が言う  
アルファベットを  
書くことができる

身の回りにある  
アルファベット表示の  
アルファベットの文字を  
読むことができる

先生が絵本  
A Letter to .... を  
読むのを聞いて  
その内容がわかる

アルファベットの  
大文字26種類を  
正確に書くことができる

アルファベット26種類の  
読み方を聞いて  
どのアルファベットの  
小文字かがわかる

アルファベットの大文字  
26種類を見て  
それを読むことができる

アルファベット  
26種類の音を  
言うことができる

アルファベットジングル  
(食べ物篇)を  
言うことができる

先生が読む絵本  
A Letter to .... の英文を  
指で追うことができる

アルファベットの小文字26種類を  
正確に書くことができる

先生が読む絵本  
This is ME! の英文を  
指で追うことができる

アルファベット26種類の  
読み方を聞いて  
どのアルファベットの大文字かがわかる

アルファベットジングル  
(身の回り篇)を  
言うことができる

参考資料 児童の振り返りメモと考察①

Lesson 5 Let's go to Italy.	1917 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
英語を使って、行きたい国について発表すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

達成感もあり、英語でのコミュニケーションを楽しむことができたのではないかな。

一言コメント: 友だちと英語を使,て行きたい国を言うのが楽しかった。

Lesson 5 Let's go to Italy.	1917 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
英語を使って、行きたい国について発表すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

アクティビティーや絵本などの教材が効果的だったのではないかな。

一言コメント: 旅行プランを考えるのが、楽しかったのしかた。

Lesson 5 Let's go to Italy.	1917 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
英語を使って、行きたい国について発表すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>









児童の心の動きがあるような授業作りができたのではないかな。

一言コメント: 本当に世界一周してみたいです。






Lesson 5 Let's go to Italy.	1917 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
英語を使って、行きたい国について発表すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

英語だけでの活動は難しいと感じる児童のサポートをし、コミュニケーションの楽しさを味わわせるさらなる工夫が必要ではないかな。

一言コメント: プランを言まし合うことが難しかった。









Lesson 5 Let's go to Italy.		よくできた	できた	もう少し	難しかった
					
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること					
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと					

一言コメント: 6 班のプランが良かった。







Lesson 5 Let's go to Italy.		よくできた
		
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること		
英語を使って、行きたい国について発表すること		
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと		

一言コメント: 自分の班が人気で良かったです

発表したことを受け止めてもらえること、そしてそれが反応として戻ってくることが、コミュニケーションの楽しさを味わうことではないだろうか。






Lesson 5 Let's go to Italy.		よくできた	できた	もう少し	難しかった
					
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること					
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと					

一言コメント: 行きたい国のことをよく知れたから、いいと思いました。

Lesson 5 Let's go to Italy.		よくできた	できた	も
				
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること				
英語を使って、行きたい国について発表すること				
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと				





一言コメント: あとべららして本音にいけるようにしたいです。

進んで活動できたからこそ、次のステップや未来への希望を持つことができたのではないだろうか。

Lesson 5 Let's go to Italy.	1977 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること			○		
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと		○			

英語表現や外国への関心を高めることができたのではないかな。

一言コメント: 前とはちがう国で発表できた。

Lesson 5 Let's go to Italy.	1977 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること		○	○		
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと		○			


たくさんのインプットの成果が出たのではないかな。

一言コメント: 前よりかすらたできて嬉しかったです。

Lesson 5 Let's go to Italy.	1977 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること		○	○		
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと		○			

学習が進んでいる児童もさらに力を伸ばすような活動ができたのではないかな。

一言コメント: 発表の時、動詞を2つかいた。I want, visit

Lesson 5 Let's go to Italy.	1977 	よくできた	できた	もう少し	難しかった
旅行プランを作るとき、英語を使って話し合いをすること					
英語を使って、行きたい国について発表すること		○			
友達の英語を使った発表を一生懸命聞くこと		○			

「聞いてみたい」と気持ちが引き出せたからこそ、新たな気づきを持ったのではないかな。

(子どもらしい自然な気づきが微笑ましい。)

一言コメント: 世界一しゅるもかでもおもしろい。